



## 六万坊大筒稽古場跡



今昔マップ 明治 30 年測図

賀露地区公民館（鳥取市賀露町南 5 丁目 1718-3）周辺土地の字名は「六万坊」でした。

鳥取県告示第 393 号（平成 7 年 5 月 12 日鳥取県広報）により、「賀露町字六万坊 1717、1718 の 1、1718 の 3」の区域を「賀露町」に、「賀露町字六万坊 1717、1718 の 1、1718 の 3 以外の区域」を「賀露町字六万坊」と名称が変更されました。

### 六万坊の開作

安政 4(1857) 年、この地で鳥取全町の塵芥を肥料として開作が始まりました。

文久 2(1862) 年、同地への桑苗植え付けが御船手番所から願い出され、国産方式で栽培を始めました。

同 6(1859) 年、賀露より岩戸までの間に塩製造場 1 カ所の建設が計画され、同 7(1860) 年、西浜青塚（小字名）近辺で西洋式食塩製法が行われようとしたが、地びき網に支障があるとして、中止が願い出されています。

（賀露誌 P46）

### 六万坊射撃場

天保 13(1842) 年に、御船手番所に三百目玉大筒 1、目玉大筒 1 が配備されています。

嘉永 2(1849) 年になると、因伯海岸防御手当人数、武器として、賀露村より長和瀬村までに旗 1 名、組頭 2 名、物頭 2 名、組士 53 名、鉄砲大小合わせて 106 挺が配置されました。

安政 7(1860) 年 4 月 29 日、賀露村六万坊の試射場で野戦筒の試射が行われました。これ以後六万坊射撃場で大砲の試射が数回行われています。

万延2(1861)年3月9日、試射の大砲の玉先が西向きであるので「中ノ茶屋通り本往来筋は不苦候得共、同別より少しにても灘辺に寄り候道筋は、一切往来留に相成る（在方諸事控）」と、往来留め（通行止め）になった記録があります。

同年10月10日にも試射が行われ「西浜通玉落二相成候間、同所往来人留」、文久2(1862)年6月8日、文久3年5月28日にも試射が行われ、いずれも往来留めとなっています。

元治元(1864)年賀露御台場2カ所が新規築造され、慶応3(1860)年には賀露村六万坊の大砲入置場が新築されました。

(賀露誌 P47)

## 出典

賀露町自治会（2009）「賀露誌」

賀露地区健康づくり推進員会 健康ウォーク 2024